

歴史的風致形成建造物指定一覧

指定番号	建造物の名称	建造物の所在地	指定年月日
第1号	旧岡本家住宅 主屋(増築部分を除く)、米蔵、馬屋、石垣及び土塀、敷地(庭園、石造物、礎石を含む)	大津市坂本六丁目1930番地1	令和4年3月25日
第2号	桐畑家住宅 主屋、離れ、土蔵	大津市中央一丁目410番地	令和6年10月1日
第3号	北川家住宅 主屋、土蔵	大津市京町一丁目403番地	令和6年10月1日
第4号	川村家住宅 主屋	大津市中央一丁目102番地	令和6年10月1日
第5号	大津魚忠	大津市京町二丁目404番地及び405番地	令和7年8月1日
第6号	小川家住宅主屋、土蔵	大津市京町三丁目219番地	令和7年8月1日
第7号	石田家住宅洋館	大津市中央一丁目409番地及び405番地2	令和7年8月1日

大津市歴史的風致形成建造物

指定番号	第 1 号
指定名称	旧岡本家住宅 主屋(増築部分を除く)、米蔵、馬屋、石垣及び土塀、敷地(庭園、石造物、礎石を含む)
指定年月日	令和4年3月25日
位置	大津市坂本六丁目1930番地1
写真	
解説	江戸時代、山門公人として延暦寺に仕えた旧岡本家の住宅。山門公人は得度を基本とするが、生活は民間人で、それぞれの家業を持ち、必要なときに延暦寺への年貢米の管理や各堂舎で行われる法会の準備などを行う人々。 南北に細長い敷地の中で南の道に面して門を開き、すこし奥まって主屋があり、北奥に米蔵と馬屋が並ぶ。主屋は、大小9室を設け、表側の3室を接客の間とし、一部には横井金谷の襖絵が描かれている。同家の過去帳と屋根裏から発見された祈禱札に元治元年(1864)の記があることから、主屋は江戸時代の末の建築になる。内部を塗籠という特異な仕上げの米蔵と、来訪者の馬を繋いだ馬屋、表門と合わせて、往時の公人の生活が伺える貴重な建物・家構えである。 未指定ではあるが、道に面した石垣や土塀、敷地内の庭園、石造物、礎石なども残り、現在は、公人屋敷として、公人の生活ぶりを伝える施設として内部が公開されている。

大津市歴史的風致形成建造物

指定番号	第2号
指定名称	桐畑家住宅 主屋、離れ、土蔵
指定年月日	令和6年10月1日
所在地	大津市中央一丁目410番地
写真	
解説	中央一丁目の浜(町)通りに北面する桐畑家住宅は、主屋、離れと土蔵が登録有形文化財である。主屋は、当家に明治37年(1904)の間取り図付きの申請書の控えが残されていることから、明治中期の建築と思われる。 木造2階建てで葺瓦葺で、外観は1階に出格子、2階は加敷造で半間ごとに社寺建築に見られる斗と肘木で装飾された特徴を持つが、昭和元年(1926)に行われた軒切りのあとにつけられたものである。

大津市歴史的風致形成建造物

指定番号	第3号
指定名称	北川家住宅 主屋、土蔵
指定年月日	令和6年10月1日
位置	大津市京町一丁目403番地
写真	
解説	京町一丁目の京町通り(東海道)に北面する北川家住宅は、主屋と土蔵が登録有形文化財である。主屋は、建物2軒分を合わせて構成されており、東3間分は江戸末期の建築で、明治20年(1887)ごろに西3間を増築したと伝えられ、明治期に撮影された写真が残る。 木造2階建て葺瓦葺で、昭和初期の軒切りで連続する虫籠窓であった2階は現在の緑青色の銅板巻きの虫籠窓とガラス戸に変えられ、1階は平格子や出格子が設けられた。

大津市歴史的風致形成建造物

指定番号	第4号
指定名称	川村家住宅 主屋
指定年月日	令和6年10月1日
位置	大津市中央一丁目102番地
写真	
解説	中央一丁目の電車道(八丁上がり)に西面する川村家住宅は、主屋が登録有形文化財である。当家に残る弊串より大正12年(1923)に建てられたことがわかっている。 木造2階建てで、2階の外壁は白い鉄板で覆われているが、漆喰の大壁造で、上げ下げ窓がついているのが印象的である。

大津市歴史的風致形成建造物

指定番号	第5号
指定名称	大津魚忠
指定年月日	令和7年8月1日
位置	大津市京町二丁目404番地及び405番地
写真	
解説	京町二丁目の京町通り(東海道)に北面する大津魚忠は、昭和45年(1970)8月5日付の朝日新聞に掲載された、当時の所有者への取材記事によれば、明治38年(1905)に呉服商の住居として建てられたとの伝承が掲載されている。現在は改装して懐石料理店となっている。 木造2階建て檼瓦葺で間口は広く、当初は表屋造であったが、店舗への改装時に現在の外観となった。

大津市歴史的風致形成建造物

指定番号	第6号
指定名称	小川家住宅主屋、土蔵
指定年月日	令和7年8月1日
位置	大津市京町三丁目219番地
写真	
解説	京町三丁目の京町通り(東海道)に北面する小川家住宅は、主屋と土蔵が登録有形文化財である。主屋は江戸末期の建築で、昭和初期の軒切りを機に高さ方向を増築し、通りに面した2階居室を設けた痕跡があることが、登録有形文化財への登録に伴う建物調査によって判明している。 木造2階建て葺瓦葺で、江戸末期に建てられた町家としては最小間口の町家であり、2階はガラス窓にして大津祭の曳山の巡行を観覧できるようにし、1階の腰付で窓は、下は研ぎ出し仕上げとし、上に間隔の粗い縦格子を入れているが、昭和初期に流行した当時最先端の技術で造られた意匠である。

大津市歴史的風致形成建造物

指定番号	第7号
指定名称	石田家住宅洋館
指定年月日	令和7年8月1日
位置	大津市中央一丁目409番地及び405番地2
写真	
解説	中央一丁目の浜(町)通りに北面する石田家住宅は、洋館と主屋が登録有形文化財である。洋館は、当家にあった設計図から昭和12年(1937)に建てられたことがわかる。 木造2階建てで深緑色のスパニッシュ瓦葺、上げ下げ窓やステンドガラスの楕円窓の外観をもつ。1階は歯科医院として現在も診療が行われているが、2階は住居であり、中央にあるバルコニーは大津祭を見るために造られたものである。